

地域コミュニティ 取組み

4月から本格始動した地域コミュニティ組織。「奈佐地区コミュニティ なぎさの会」(奈佐地区)と「竹野南地区コミュニティわいわいみ・な・み」(竹野南地区)の取組みを紹介します。

《問合せ》コミュニティ政策課 ☎21-9020

奈佐地区コミュニティ なぎさの会

なぎさ塾 開講!!

奈佐地区の地域づくりに関わる分野の専門家を講師に招き、地域再生や地域の魅力を再発見する「ふるさと再生なぎさ塾」(以下、なぎさ塾)を開講しています。

6月19日に開講式と「農業振興につながる農作物」をテーマにJ.A.たじま職員から講義を受けました。6月30日にあった第2回なぎさ塾では、神戸大学名誉教授の保田 茂

さんを講師に招き、食育や和食文化について学びました。

「地域の自然環境と人々の暮らしを考えてみる」

9月29日、第3回なぎさ塾では「里山にすむ生き物」と題して、市立コウノトリ文化館館長の上田尚志さんによる自然環境と住民との関わり方についての講義を受けました。

上田さんは「近年、自然の樹木の名前が分からない人がいる。身近な自然を知らなくなってきたおり、人と里山との関わりが薄れたことに由来する」と話し、約50人の参加者は興味深く聞き入りました。



▲「里山にすむ生き物」の講義

また、人と自然との共生について「自分の住んでいる地域の自然を知ること。自然との関わりを持つこと。生活の中に自然を取り込むこと。自然はモノづくりの宝庫であること。子どもたちに体験を通して伝えることが重要である」とまとめ、奈佐地区での活動のヒントを示しました。

「自分たちで地域のことを調べて発表できる場へ」

なぎさ塾では、本年度、あと2回程度の講義を予定しています。同会長の岡下 修さんは「我々は、地区や自分の住んでいる区のことすらも深



▲奈佐地区の各行政区の状況(平成28年作成)

く知っていないことがたくさんある。一方で、地区をもっと知りたいという人もいる。次年度以降は、外部有識者の講義にとどまらず、まち歩きなどを通じて、住民が地域について調べて発表できるように活動にもつなげたい。そのことで、住民の郷土愛を育んでいきたい」と、なぎさ塾に取り組み意義を話しました。

竹野南地区コミュニティ

わいわいみ・な・み

交流広場わいわいみ・な・み 住民や竹野南地区に訪れる人が気軽に交流できるよう平成28年4月、J.A.の旧店舗を借用して「交流広場わいわい



▲交流広場わいわいみ・な・み

み・な・み」(以下、交流広場)を開設しました。

交流広場では、毎週木曜日、地域のボランティアグループよつばの会が開く「喫茶よつば」で、手作りスイーツやコーヒー、お茶を楽しむことができます。「喫茶よつば」には、毎週約40人の来場者があり、コーヒーを飲みながら、わいわいと、にぎやかな雰囲気ができ上がり、住民の憩いの場となっています。

「運営側が無理なく続けられる場所」

「スタッフが客席に座って話に入ってるでしょ? たぶん、これぐらい小さな飲食店



▲スタッフも一緒に語らいに参加



▲喫茶よつばの手作りスイーツ

を4人でやっていたら採算が合わない。でも客席に座ってお客さんとおしゃべりする人も含めて喫茶よつばの仕事なんです」。このように語るのは、竹野南地区コミュニティわいわいみ・な・み副会長で、よつばの会代表の富森とも子さんです。

竹野南地区の多くの区では、婦人会がなくなり、女性が集まる機会が減りました。さらに少子化・高齢化に不安を覚え、富森さんは、読み聞かせやボランテニア活動をしている方等と約10年前によつばの会を結成しました。

半年ぶりに「喫茶よつば」の活動に来たというスタッフは「久しぶりに来て、よつばの会の皆はいつもの感じで接

してくれる。こうして気軽に接してくれる雰囲気があるから、今日ここに来ることができたと思う」と話しました。

喫茶よつばでは、40〜70歳の女性約20人のメンバーの中から4人がローテーションで運営に当たっています。「出られる人が出る」という活動方法で、スタッフの楽しそうに運営に当たる姿が、喫茶よつばの空気を明るくしています。

「目配り・気配りできる場所を創っていく」

喫茶よつばのお客さんは、バスの待ち時間に訪れる方やフェイスブックを見て訪れる方など、さまざまです。富森さんは「お客さんと話が出来た」と思ったら、スタッフはお客さんの席に行き話をします。そして次に来てもらったときには、お互いが顔見知りになつていて、また、話ができるようになります。さまざまな立場の人と分け隔てなく関わられ、目配りや気配りができる場所になれば」と語ります。取組みを通して、住民同士の新たな関係づくりを目指すという展望がうかがえました。

地区の目標達成に向けてできることを少しずつ

奈佐地区の取組みは、講演会をすることが目的ではなく、将来に向けた課題を住民が見つけ出すためのものでした。地域の自然環境や日々の暮らしに着目することは、行政区を超えた地域課題に目を向けていくことといえ、そのヒントを住民が学ぶ姿でした。

竹野南地区の取組みは、運営スタッフが無理なく楽しみながら活動を行う姿が特徴的でした。そして、地域の一体感である、よつばの会の活動が地域コミュニティの活動に位置付けられたことが、同会にとつてのモチベーションを高め、また、コミュニティづくりにも大きな役割を果たしていることがうかがえました。

このように、現在各地域コミュニティで行われている取組みの多くは、地区の課題解決に向けて模索をしている段階といえます。地区内の団体等の活動にも注目しながら、無理なく少しずつ目標達成に近付けていくことが重要です。

地域コミュニティ組織と市長との意見交換会を開催しました

地域コミュニティがスタートして半年が経過し、地域コミュニティ組織と市長との意見交換会を開催しました。各組織からは①コミュニティと行政区の役割②女性・若者の参画③地区全体のコミュニティ意識を高める必要性などの意見が出されました。また、多くの地区では、旧公民館事業を中心に取り組みが進められていることから、同じようなイベントが中心でい

いのかという意見がある一方で、これまでのつながりを生かして新しい取組みへ発展させたいなどの意見もありました。

今回のような意見交換会を通して、他地区の取組みに共感したり、新しい取組みにながったりする場合もあります。市では、このような場を定期的に設け、引き続きコミュニティ組織と協働し地域を進めます。



▲①城崎地域②但東地域(10月10日)、③竹野地域(10月11日)、④豊岡地域(10月12日)、⑤日高地域(10月13日)、⑥出石地域(10月24日)